

基礎・基本の確実な定着と、自ら学ぶ意欲と自ら考える力の育成

～「教えて考えさせる授業」の実践を通して～

足利市立けやき小学校

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

本校の研究主題の『基礎・基本の確実な定着と、自ら学ぶ意欲と自ら考える力を育成』をすることは、生涯学習を目指した学習指導の中心的な課題である。

本市においては、「足利市の教育目標」の中に「基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける」ことが児童期及び青年期の重点目標として掲げられている。

本校においては、「一人ひとりの子どもが学ぶ力をつける学習指導の在り方」を学校課題に掲げ、その解決に向けて学習指導の改善に日々努めてきたところである。

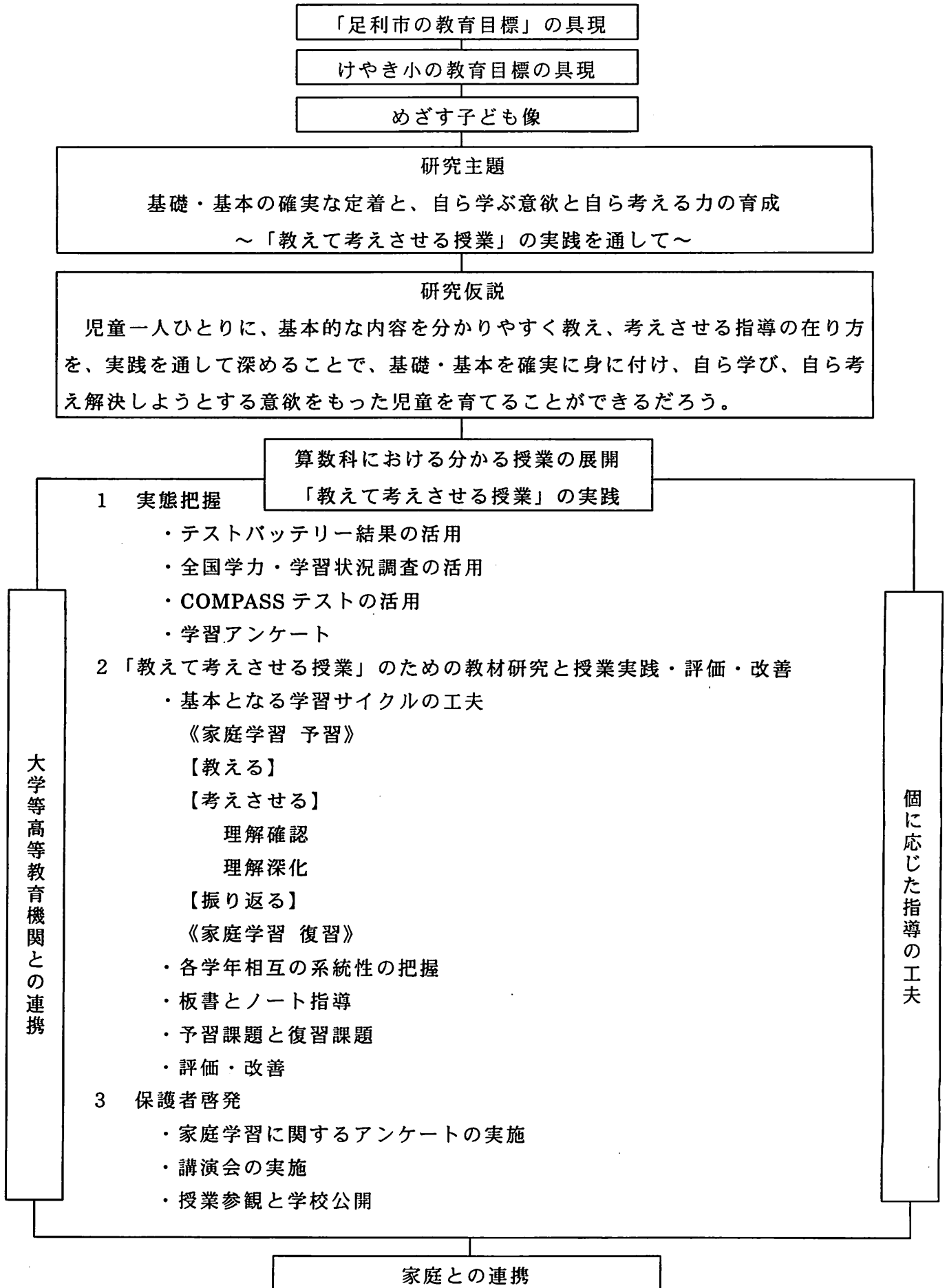
しかし、各種のテストや調査アンケート等から本校児童の実態を考察すると、基礎的・基本的な知識技能と読解力に課題があることが分かった。また、算数の授業では、「できる」「分かった」と思えることで授業が楽しくなり、さらに難しい問題に取り組む意欲がもてることがうかがえた。その他に、家庭学習の仕方が分からなくて、家庭学習に取り組めない児童が多いことも分かってきた。

児童に「分かる喜び」や「学ぶ意義」を実感させるためには、基礎的・基本的な知識及び技能を分かりやすく教え、学んだ知識や技能を使って新たな課題を解決する活動を通して、学習に必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う指導を一層充実させていく必要があると考えた。

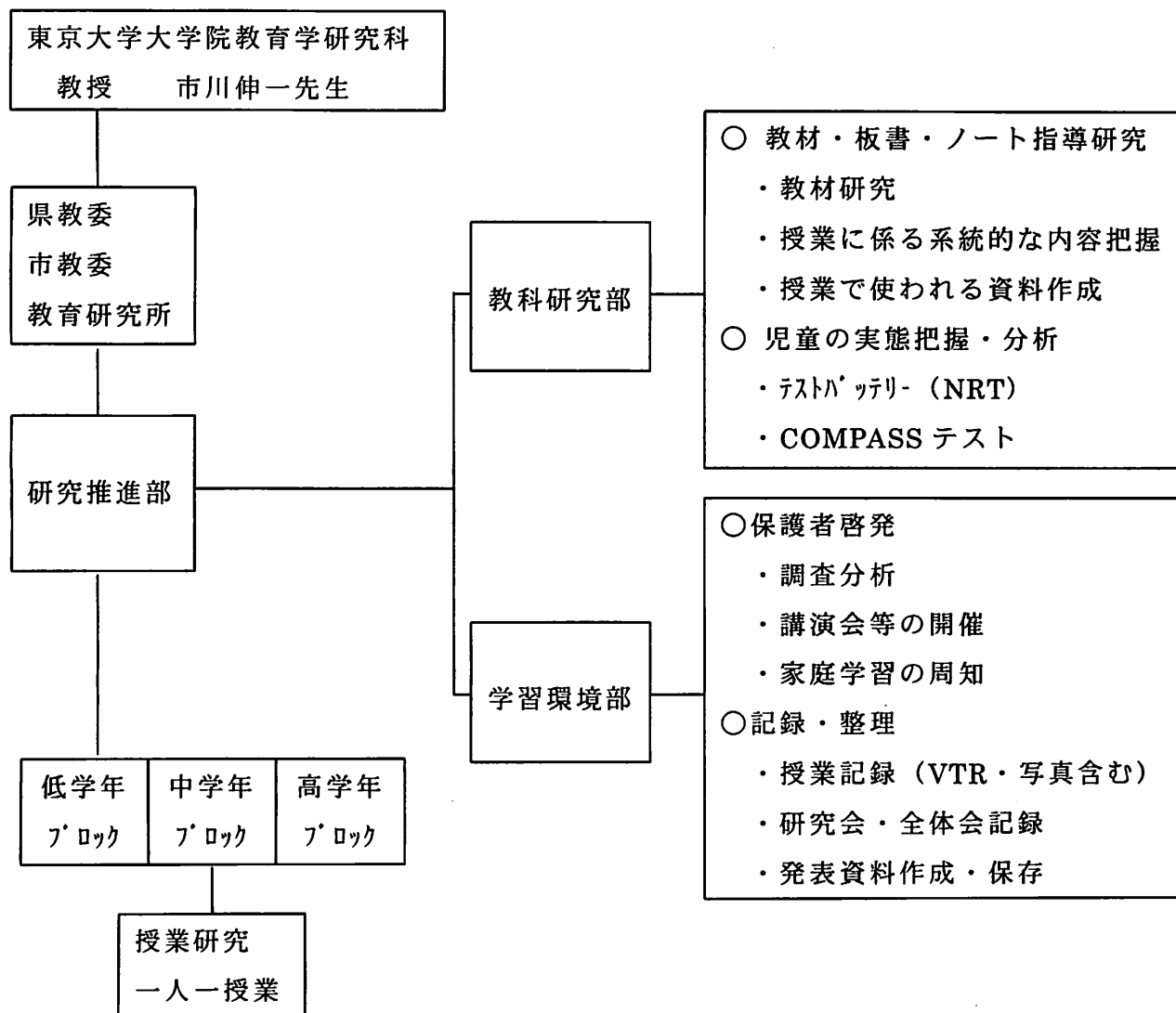
新学習指導要領にも、教育課程編成の一般方針に「児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、児童の発達段階を考慮して、児童の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。」とあることから本研究主題の具現化を図ることが新学習指導要領の主旨につながると考えた。

本校では基礎的・基本的な知識及び技能を身につけさせ、学んだ知識や技能を使って新たな課題を解決する活動を通して、「分かる喜び」や「学ぶ意義」を実感させ、主体的に学習に取り組む態度を養うために、東京大学大学院教育学研究科教授の市川伸一先生にアドバイスをいただき、「教えて考えさせる授業」を取り入れ実践する中で、教師自身が児童の実態を把握し、教材研究を深め、児童一人ひとりに基本的な内容を分かりやすく教え、考えさせる時はじっくり考えさせることで、基礎・基本の確実な定着と、自ら考え解決しようとする児童の意欲を高められると考え本研究主題を設定した。

2 研究の全体構想図



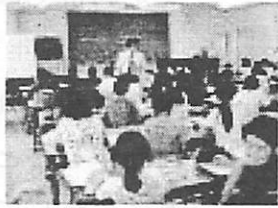
3 研究推進のための校内組織



4 研究の経過

月 日	内 容
平成20年度	
4月	全国学力・学習状況調査等を活用した学校改善の推進に係る実践研究推進事業及び学力向上実践研究推進事業調査活用協力校並びに推進校の指定を受ける。
4月	足利市立教育研究所の研究員研究を受ける。
4月 7日	全体会（研究の計画）
4月22日	全国学力・学習状況調査実施
4月30日	研修会（輪読会）「『教えて考えさせる授業』小学校」を全職員で読む。第1回教育研究交流会
6月14日	第1回教育研究交流会の報告会
6月27日	COMPASSテスト（5年生）実施
7月14日	足利市学習指導研修会
7月24日	

8月22日 23日	第1回教えて考えさせるセミナー参加
8月	出張報告会
9月	保護者アンケート実施
9月12日	COMPASSテストの結果の見方の研修（東京大学大学院教授市川伸一先生ご指導） 交流研究実施
9月18日	先進校（草加市立八幡小学校校内研修会）を参観
10月15日	授業研究会 2年、6年 交流研究実施
11月 5日	学力・学習状況調査の結果の分析と課題の検討
11月 7日	校内授業研究会 3年
11月18日	校内授業研究会 4年
11月27日	校内授業研究会 1年
11月28日	先進校（草加市立八幡小学校発表会）を参観
12月 1日	教育講演会（公民館事業と併せて） 「とちぎの子ども『確かな学力』を育むために」宇都宮大学教授 松本敏先生
12月 3日	校内授業研究会 5年
12月 5日	学習アンケートの検討
1月27日	先進校（新座市立栄小学校発表会）を参観
1月28日	テストバッテリー、NRTの実施
2月 9日	授業研究会 5年 交流研究実施
2月25日	学習アンケートの実施
3月	学習アンケート、テストバッテリー、NRTの結果の分析と課題の 検討
平成21年度	
4月 7日	全体会（研究の計画）
4月15日	今年度の学級の児童について実態把握をする。
4月21日	全国学力・学習状況調査実施
4月22日	研修会『教えて考えさせる授業』を全職員で読む。
6月 9日	第2回教育研究交流会
6月20日	授業研究会 3年、6年交流研究実施
6月26日	校内授業研究会 2年
6月27日	第2回教育研究交流会の報告会
7月14日	COMPASSテスト（5年生）実施
7月21日	足利市学習指導研修会
8月 4日 5日	第2回教えて考えさせるセミナー参加
8月26日	出張報告会
9月	保護者アンケート実施

9月11日	COMPASS テストの結果の見方の研修 (東京大学大学院教授市川伸一先生) P T A 教育講演会「子どもの『確かな学力』を育むために」 東京大学大学院教授市川伸一先生講演会 交流研究実施	
10月1日	学力・学習状況調査の結果の分析と課題の検討	
10月28日	先進校(横浜市立本町小学校発表会)を参観	
11月13日	先進校(金沢市立犀川小学校発表会)を参観	
1月20日	校内授業研究会 1年	
1月21日	授業研究会4年、5年交流研究実施	
1月27日	テストバッテリー、N R Tの実施	
2月9日	学習アンケートの実施	
2月25日	学習アンケートの分析と課題の検討	
3月1日	テストバッテリー、N R Tの結果の分析と課題の検討	
平成22年度		
4月7日	全体会(研究の計画)	
4月20日	全国学力・学習状況調査実施	
6月8日	授業研究会4年、5年交流研究実施	
6月12日	第3回教育研究交流会	
6月25日	授業研究会2年、3年交流研究実施	
7月12日	COMPASS テスト(5年生)実施 保護者アンケート実施 学習アンケートの実施	
7月22日	足利市学習指導研修会	
8月11日 12日	第3回教えて考えさせるセミナー参加	
8月30日	出張報告会	
9月12日	COMPASS テストの結果の見方の研修 学力・学習状況調査の結果の 分析と課題の検討	
10月4日	授業研究会1年、6年交流研究実施	
10月22日	研究発表	

Ⅱ 研究の実際

1 実態把握

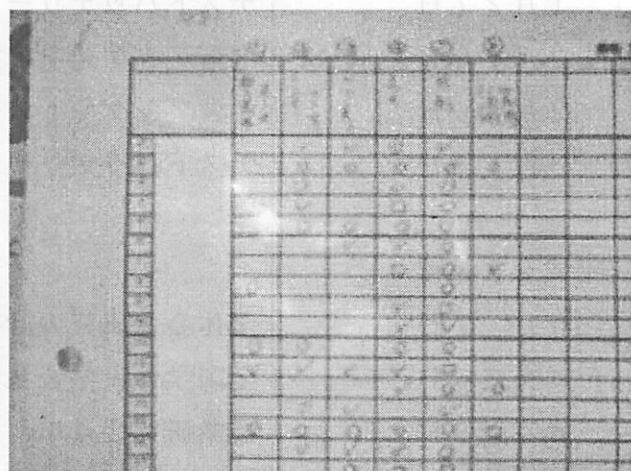
(1) テストバッテリー結果の活用

足利市では、3・4・5年生を対象にテストバッテリーを実施しており本校はそれに加えて、1・2・6年生もNRTテストを行っている。1月末～2月上旬に実施し診断結果が年度末に返却され、その結果を学年学級で分析し、年度内に個人と全体に対する補充指導を実施するとともに、4月に前年度の実態と今年度の学習の系統性を考えた分析を行い指導に生かしてきた。

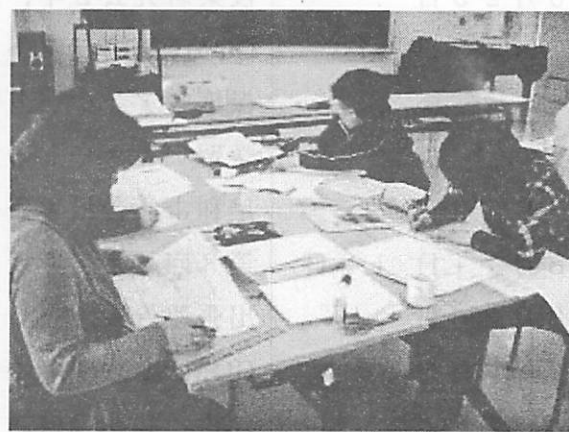
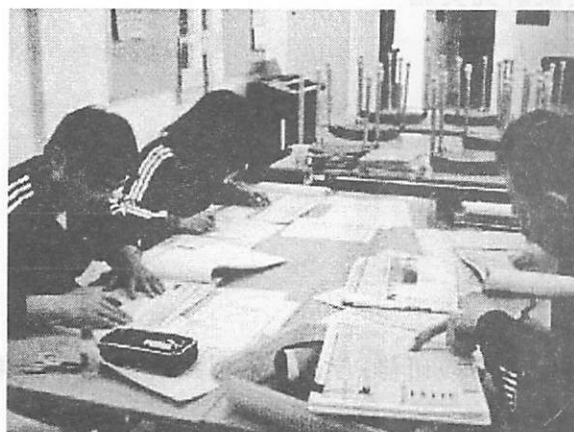
【名簿に結果を転記】



【年間指導計画への結果の反映】



【テストバッテリー（NRT）の結果を分析する先生方】



(2) 全国学力・学習状況調査の活用

学力調査の結果から、個人の実態と学校としての特徴や傾向をつかみ、全職員が指導の見直しに生かした。6年生対象にコース別の補充指導の計画を立て、11月から週1時間を補充指導の時間に当て、個人と全体に対する補充指導を実施した。

また、学習状況調査は、個人の生活習慣や考え方の特性を把握し、学年学級経営に役立つ情報として、保護者啓発等に生かすとともに、これらの内容を全職員が、分析し全体の傾向をつかみ、授業時の留意点として活用するように共通理解を図ってきた。

☆補充指導後の6年生児童の感想

(平成22年3月)

自分の意見や感想を書いてください。

確にんじきでわらわらしてました。
 行ったとてつがのわらわらより
 ても、簡単に、遅くできるお話を
 教えるもつたので、よかった。お
 しゃべりしたと、思いました。

自分の意見や感想を書いてください。

自分のレベルでできるのは
 とてもよかった。たまたま
 たくさん定期的にやりた
 かったと思つた。問題がよくできて
 楽しかった。

自分の意見や感想を書いてください。

じっくりコースでは、いろいろとゆかさ
 ないところもあつたけれど、先生に
 教えてもらいながら、もういっ
 ぱあがんばりました。
 学カアツク講座の効果がは
 まりてきたといつて、

自分の意見や感想を書いてください。

私は、学カアツク講座を通して、算数
 について、いろいろとわかって
 きました。それは、教えてくれた先生の
 おかげです。もっと学習を、楽しめ
 たいと思います。

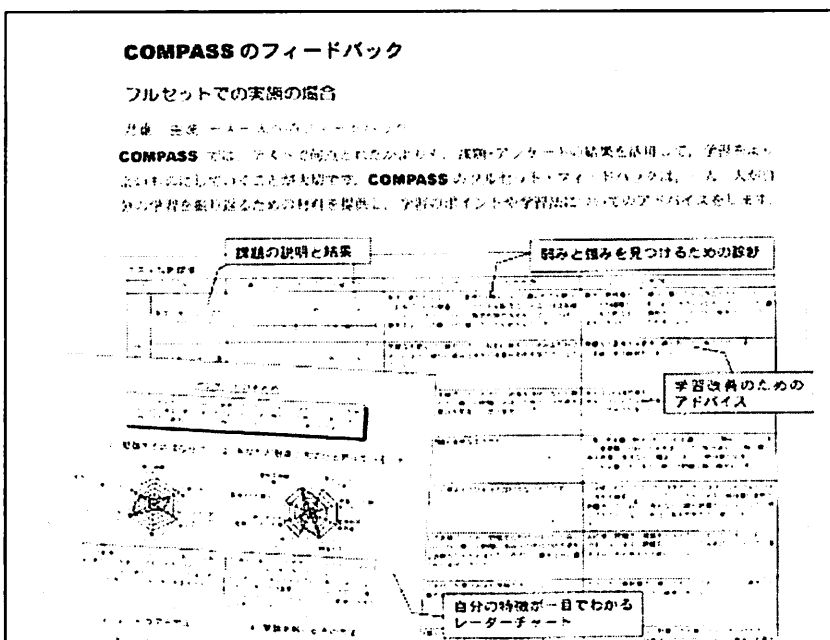
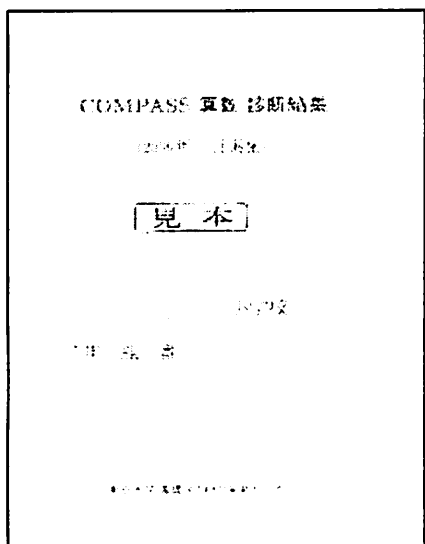
(3) COMPASS テストの活用

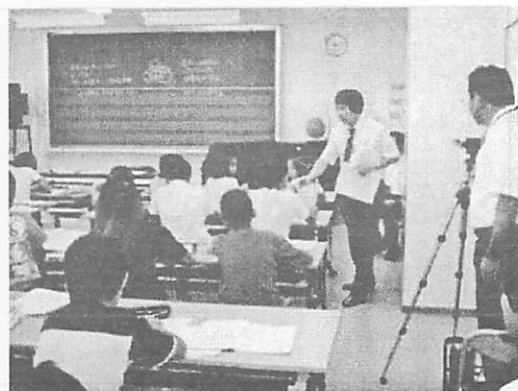
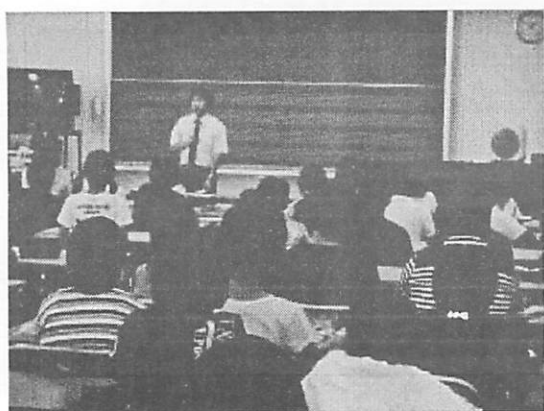
5年生対象に、東京大学基礎学力研究開発センターによる算数数学の学力・学習力アセスメントテスト『COMPASS 算数診断テスト』を7月中に実施した。

平成20年9月と平成21年9月にCOMPASSテストの結果の見方とその活用を市川先生にご指導いただき、その結果を授業の中で活用した。また、苦手克服のための講座を設け、自分の苦手なところと得意なところを児童が把握し意識して学習するきっかけづくりとした。

(市川先生の研究室アドレス www.p.u-tokyo.ac.jp/lab/ichikawa)

【 COMPASS テストの結果例 】





自分のCOMPASSテストの結果を見て、自分の強さ（得意な点）と弱さ（うまく学習が生かせない点）を自分なりに考えながら、市川先生の話の話を聞きました。

☆ 補充指導後の5年生児童の感想（平成21年9月）

今日の説明を聞いて感想を自由に書いて下さい。

今日の説明を聞いて、
わいはい、計算を工夫したりして
早く計算ができてきょうに
なりたいです。
宿題で使う言葉やルールなどは、
教科書を何回も読んで、人に
説明できるように なりました。

今日の説明を聞いて感想を自由に書いて下さい。

計算はいつも年という感じが
あつた。今日聞いてもう、それを見
全体にふたして計算するより計算が
できることに思いました。このうさぎ
が、とても良かったです。

今日の説明を聞いて感想を自由に書いて下さい。

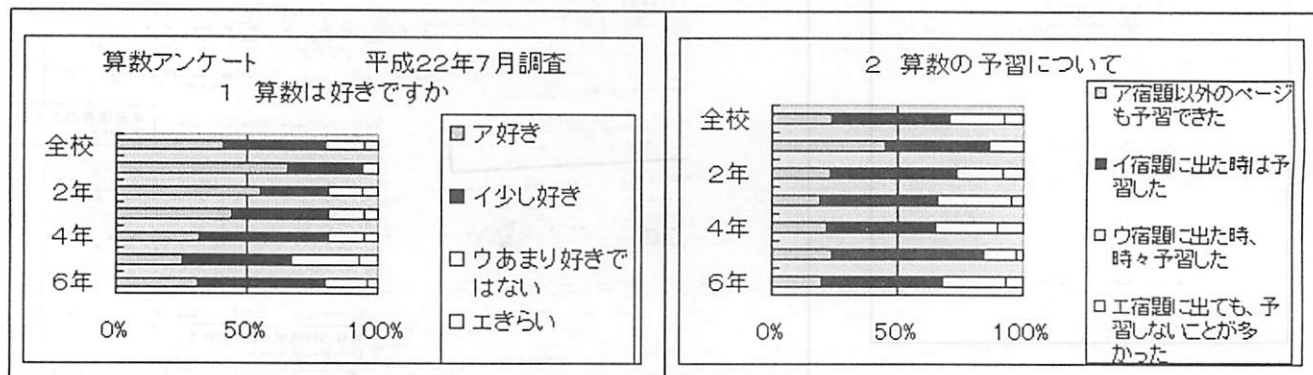
図を書いた時に表で計算もかんたん
にわかるし、計算の全体を見れば
ねはすぐに問題がとけそうだと
思いました。早く計算むとができる
ようになりたいです。

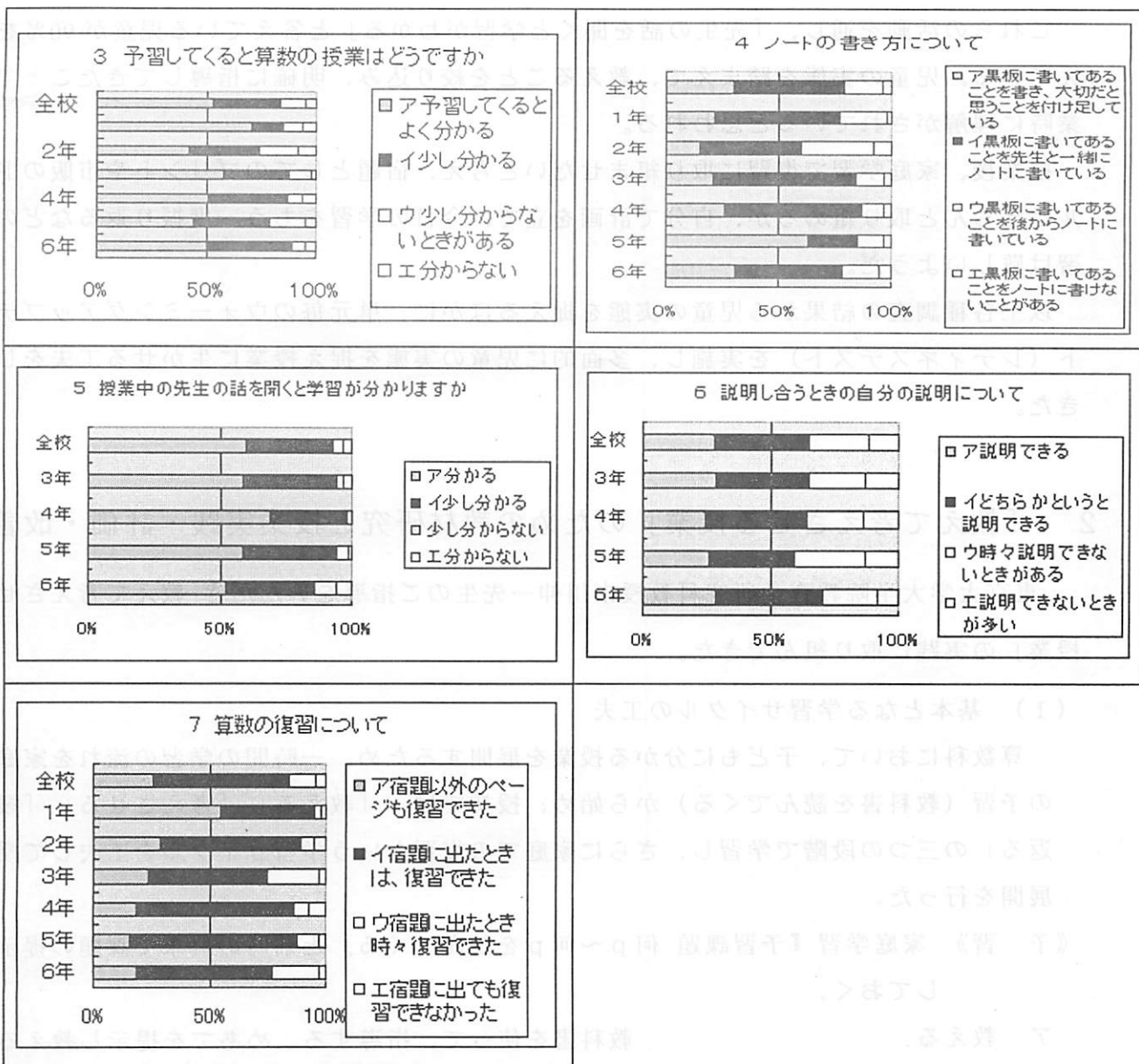
☆ ご指導をいただいた5年生担任の先生方の意見・感想

- ・ 問題文の読み取りを、図を書いて解く習慣を育てたい。授業時に問題文を音読させ、黒板に図を書き、児童もノートに図を書き、解く機会を増やそうと考えた。
- ・ 工夫すると計算が速く・簡単・正確にできることを日頃から授業の中で指導したいと思った。

(4) 学習アンケート

20、21、22年度の3回、全学年の児童に学習アンケートを行い、意欲や関心の状況等を調べた。課題に取り組む姿勢や学習の理解度と意欲の関係などを考察し、授業時に生かすようにした。平成22年度7月に、下記のアンケートを実施した。





《考 察》

約 80% の児童が、算数が好きと答えている。ほとんどの児童が算数を楽しいと感じていると言える。

また、予習を授業の終末で投げかけ、家庭学習で取り組ませるようにしてきたことで、児童は、教科書を読む習慣が育ってきた。中には教科書の音読だけでなく何らかの書き込みをしてくるようになり、予習して学習内容をおおよそ理解した上で授業に臨む子が増え、予習のレベルが向上してきている。

特に中学年高学年でその傾向が高くなってきている。児童は、予習のよさを実感している。

授業研究の一端としてノート指導を行ってきたが、低学年は、板書を書くだけで精一杯だが、高学年になるほど、ノートを自分の言葉でまとめることができている。

授業の中の活動として説明活動を取り入れてきたが、研究を始めたばかりの頃は、自信なさそうにペアやグループで行っていたが、だんだん説明できる児童が増えてきている。説明の仕方のモデルを示す指導等今後も継続する必要がある。

これらの活動を通し、「先生の話の聞くと学習がわかる」と答えている児童が90%を超えている。児童の実態を踏まえて、教えることを絞り込み、明確に指導してきたことで授業時に理解がされていると思われる。

授業後、家庭学習で復習に取り組ませたいと考え、宿題としてのプリントや市販のドリルはきちんと取り組めるが、自分で計画を立て、今日の学習をもう一度振り返るなどの復習は難しいようだ。

以上各種調査の結果から児童の実態を捉えるほかに、単元毎のウォーミングアップテスト（レディネステスト）を実施し、多面的に児童の実態を捉え授業に生かせる工夫をしてきた。

2 「教えて考えさせる授業」のための教材研究と授業実践・評価・改善

東京大学大学院教育学研究科教授市川伸一先生のご指導をいただき「教えて考えさせる授業」の実践に取り組んできた。

(1) 基本となる学習サイクルの工夫

算数科において、子どもに分かる授業を展開するため、一時間の学習の流れを家庭での予習（教科書を読んでも）から始め、授業では、「教える」「考えさせる」「振り返る」の三つの段階で学習し、さらに家庭での復習という学習サイクルを工夫して授業展開を行った。

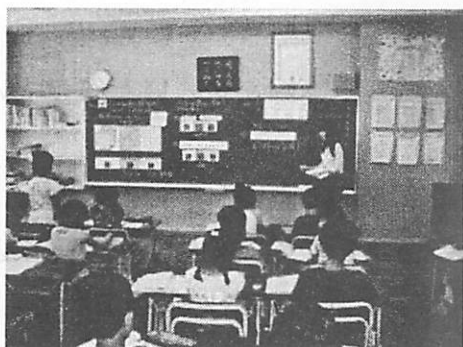
《予習》 家庭学習『予習課題 何p～何pを読んでも』と前時の終末で課題の提示をしておく。

ア 教える

教科書を使って、指導する。めあてを提示し教えるポイントを押さえ、児童と対話を通して児童が予習してきた内容が、ある程度分かっている、さらによく児童が分かったと思えるように教師は説明する。

授業の流れが分かるような板書の仕方を工夫する。

短時間に分かりやすく教えるための教材の厳選や教具の工夫をする。



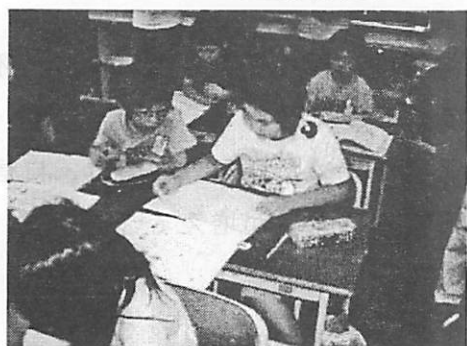
イ 考えさせる

(i) 〔理解確認〕

理解と思考を深める発問や課題を教師が用意しておき、じっくりと考える場面をつくる。

理解確認問題を解き、児童がペアになり説明する側と聴く側となり、伝え合うことを通して課題の理解状況を確認する。

教師の説明手本を参考に、児童自身の言葉で説明活動をする。



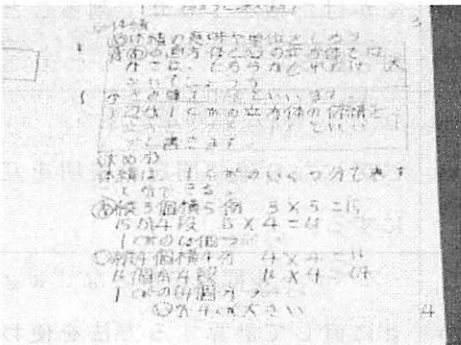
(ii) [理解深化]



本時の学習の内容を使い、工夫して解く考えがいのある問題を理解深化問題として用意し、児童に活用を促し、既習内容をもとにした多様な考えを誘発する問題に、個人で次にペアやグループで取り組ませる。

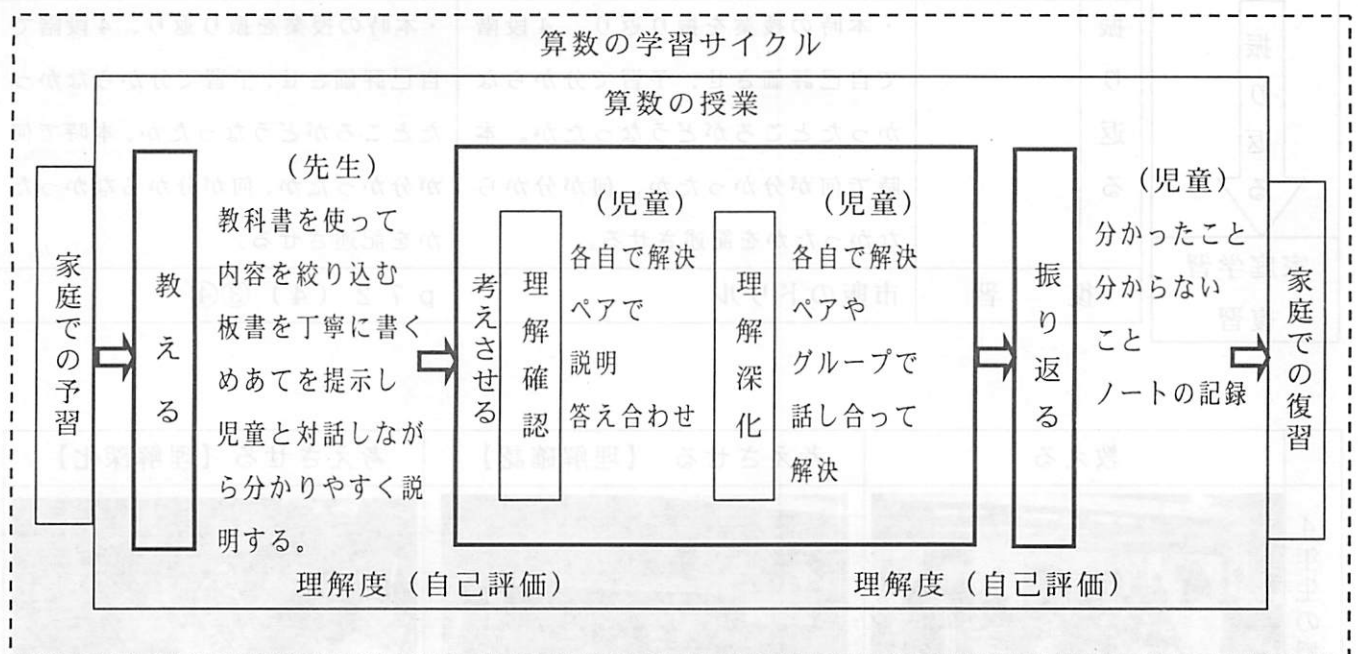
ウ 振り返る

(メタ認知育成)



児童が、自分自身の理解度を分かったこと分らないこととしてノートに記述し(自己評価)、自分自身の学習の理解状況を客観的に判断できるようにする。担任は、児童の理解状況を把握する。

《復習》 家庭学習で本時の学習内容を使って課題を解く。



		4年生『わり算の筆算(1)』 指導の手立て(本時3/14)	5年生『小数のかけ算』 指導の手立て(本時3/8)	
家庭学習 予習 ↓ 算数の授業 ↓ 振り返る ↓ 家庭学習 復習	予習	・学習問題の分かっていること分からないことの部分に線を引かせておく。	・家庭学習で音読み、疑問点に付箋を貼る。分かることは書き込みをさせる。	
	教える	㊦ 72 ÷ 3の筆算を考えよう。 ・模型硬貨を使い72円を3人で分けるときに10円を崩して12を3で割る筆算の仕方を説明する。	㊦ 小数×小数の筆算の仕方を知り、積を求めよう。 ・整数の筆算にするために10倍してかけた積を100で割ることを知らせる。	
	考えさせる	理解確認	p37(4)の問題を解く。 ペアになり確認問題の説明を互いにする。	p72(3)の問題を解く。 ペアになり確認問題の説明を互いにする。
		理解深化	・2位数÷1位数で十の位からくり下がりのある計算をなぜ一の位から商をたてては間違いやすいかを考えさせる。 ペアになり答え合わせをする。	・スペシャル問題を解きなせkgをgに直して計算する方法を使わないかをグループで話し合いながら考えさせる。
	振り返る	・本時の授業を振り返り、4段階で自己評価させ、予習で分からなかったところがどうなったか。本時で何が分かったか、何が分からなかったかを記述させる。	・本時の授業を振り返り、4段階で自己評価させ、予習で分からなかったところがどうなったか。本時で何が分かったか、何が分からなかったかを記述させる。	
復習	市販のドリル	p72(4)③④		

	教える	考えさせる【理解確認】	考えさせる【理解深化】
4年生の授業風景			

	教える	考えさせる【理解確認】	考えさせる【理解深化】
5年生の授業風景			

これまでの授業実践例

※指導案はホームページからダウンロードしてください。

【 20 年度 授業実践 】

月／日	学年 組	単元名	授業者	研究会
10/15	2年1組	三角形と四角形	T1 檜枝眞理 T2 高野彩子	公開
	6年2組	単位量あたりの大きさ	T1 三柴君予 T2 薄井仁子	
11/7	3年1組	かけ算のひっ算	T1 齋藤 勝 T2 堀江悦子	校内
	3年2組	かけ算のひっ算	T1 島田敦子 T2 堀江悦子	
11/18	4年1組	わり算の筆算	T1 駒場眞一 T2 川島隆子	校内
	4年2組	わり算の筆算	T1 増田香代子 T2 川島隆子	
11/27	1年1組	ひきざん	T1 鈴木昭子 T2 阿部 文	校内
	1年2組	ひきざん	T1 岡田千里 T2 上村圭子	
12/3	5年2組	三角形や四角形の角	T1 薄井仁子 T2 金子泰之	校内
2/9	5年3組	割合とグラフ	T1 湯澤典子 T2 薄井仁子	公開

【 21 年度 授業実践 】

月／日	学年 組	単元名	授業者	研究会
6/25	3年2組	たし算とひき算	T1 増田香代子 T2 大川華奈	公開
	6年3組	体積	T1 湯澤典子 T2 薄井仁子	
6/26	2年1組	100より大きい数	T1 三村 愛 T2 阿部 文	校内
1/20	1年1組	ながさくらべ	T1 檜枝眞理 T2 堀江悦子	校内
1/21	4年1組	面積	T1 鈴木昭子 T2 大川華奈	公開
	5年3組	平行四辺形や三角形の面積	T1 内山 香 T2 薄井仁子	

【 22 年度 授業実践 】

月／日	学年 組	単元名	授業者	研究会
6/8	4年2組	わり算の筆算(1)	T1 増田香代子 T2 大川華奈	公開
	5年2組	小数のかけ算	T1 湯澤典子 T2 薄井仁子	
6/25	2年2組	100より大きい数	T1 須藤恭代 T2 薄井仁子	公開
	3年1組	円と球	T1 齋藤 勝 T2 大川華奈	
10/4	1年2組	ながさくらべ	T1 三柴君予 T2 堀江悦子	公開
	6年1組	分数のかけ算	T1 倉上清彦 T2 薄井仁子	

(2) 各学年相互の指導の系統性の把握

新学習指導要領が告示され、21年度から移行措置がとられ、算数の学習内容及び時数や単元構成が変化したことから、系統性を踏まえての単元構成をすることの大切さがクローズアップされた。

児童の学習状況（レディネス）を担任が正しく把握することで、新単元の学習をどう進め、何を学ばせるかを教材研究によって絞り込み、より分かりやすい授業を組み立てることができると思う。

(3) 板書とノート指導

【ノート例】

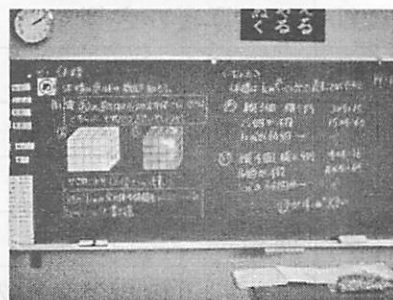
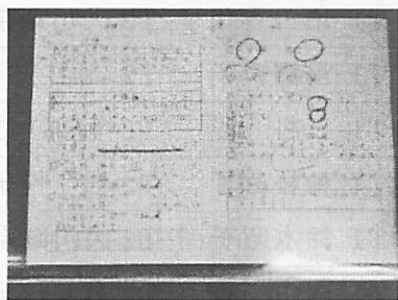
毎時間、児童と教師がめあてを確認して授業を始め教師は黒板に④と書き、めあてを書く。青のチョークで囲み、児童もノートに右のように④と書き、青鉛筆で囲む。

次に課題を児童と一緒に声を出して読みながら板書する。児童もノートに共書きをする。「ノートの欄外に日付と教科書のページを書く、『めあて』は青鉛筆で囲む。まとめは赤鉛筆で囲む。」や直線は定規を使って引く習慣を育てる等、全学年が同一歩調で実施している。

月/日	④	
p		課題
		式
		答え
④		まとめ
	①	
	②	

1時間の授業の流れが、板書を見ることで確認できるように、板書を残すようにしてきた。

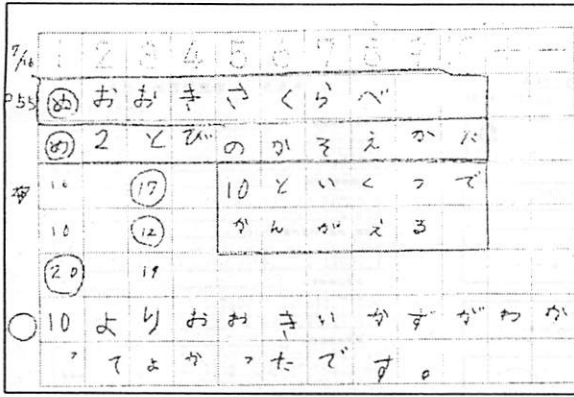
児童は、授業の振り返りで自分自身の理解度を数値化し、○に4 3 2 1の4段階（低学年は○●の2段階）で書くことや分かったこと①分からないこと②をノートに書き、授業後担任は、児童のノートに目を通し、理解状況の把握をする。



【1年生のノート例】

平成22年4月に入学してきた1年生の7/14のノートである。ノートの書き方の約束に添って、枠外には、日付、ページを書き、めあては定規を使って線で囲む等、丁寧に書いている。

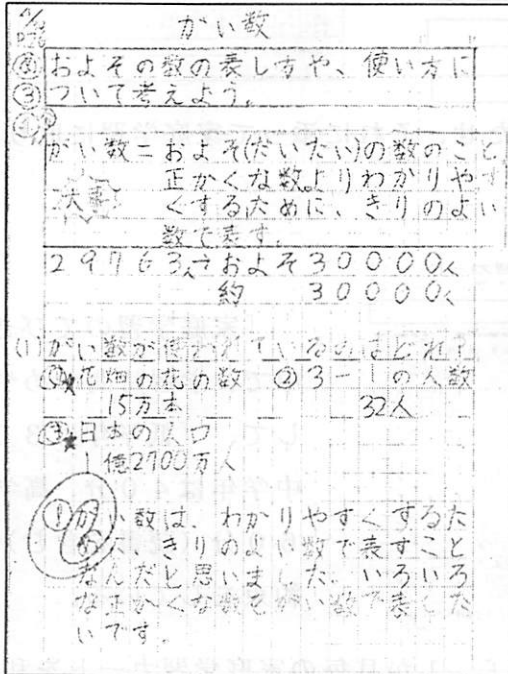
自己評価（メタ認知）は自分なりの理解度を表記し、2回○（よく分かった印の白丸）が書かれている。「分かったこと」も自分の言葉で書かれている。



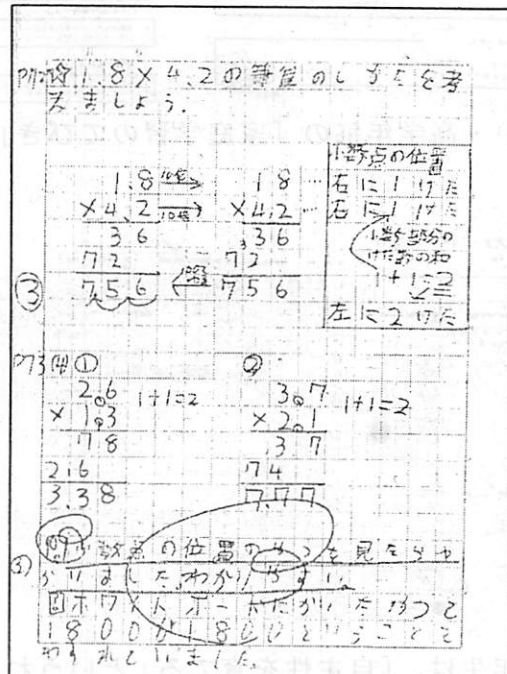
【4年生のノート例】



【5年生のノート例】



がい数の授業でのノート



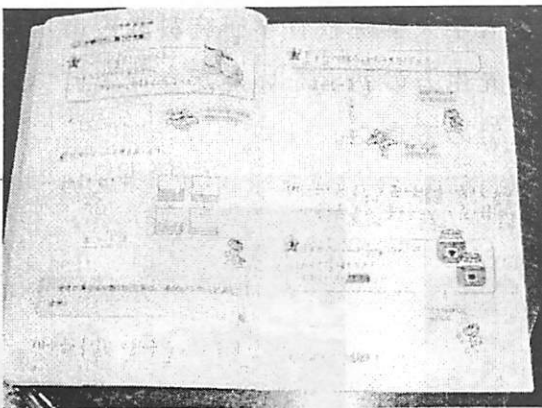
小数と小数のかけ算の授業でのノート

大事 など自分で考え加筆されている。

① 分かったこと ② 分からないことが自分の言葉でしっかり書かれている。

(4) 予習課題と復習課題

ア 授業とつながりをもった予習課題



自己評価（メタ認知）は自分なりの理解度を表記し、2回〇に4, 3, 2, 1が書かれている。

①「分かったこと」も自分の言葉で書かれている。

授業の終末に、次時の予告をし『予習課題何p～何pを読んでくる』と課題を出している。

読んだ日付と印を付けるだけなので、取り組めている。

このように教科書の音読をする約束になっているが、学年が高学年になるほど自主的にアンダーラインを引いたり、書き込みをしたり、疑問な点に付箋を貼ってくる等をしている。

イ 復習課題の出し方

1. 復習課題の出し方

2. 復習課題の出し方

3. 復習課題の出し方

4. 復習課題の出し方

5. 復習課題の出し方

6. 復習課題の出し方

3・4年生 家庭学習のてびき

学習時間

学習時間

学習時間

学習時間

学習時間

5・6年生 家庭学習の手引き

学習時間

学習時間

学習時間

学習時間

学習時間

低・中・高学年毎の「家庭学習のてびき」を持たせ、それに添って家庭学習に取り組ませている。

家庭学習カード

家庭学習カード

家庭学習カード

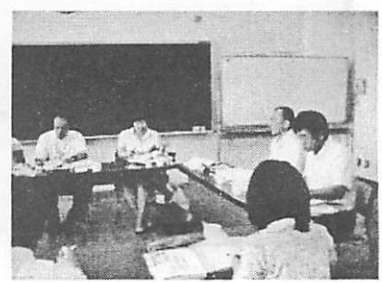
「家庭学習のてびき」の中で、学習時間のめやすとして、「低学年は30分、中学年は40分、高学年は60分（読書を含む）」の約束をしている。

3～6年生は、「自主性を育てる」というねらいから、1か月毎の家庭学習カードを利用し、計画的な学習の仕方を教えている。

(5) 評価・改善

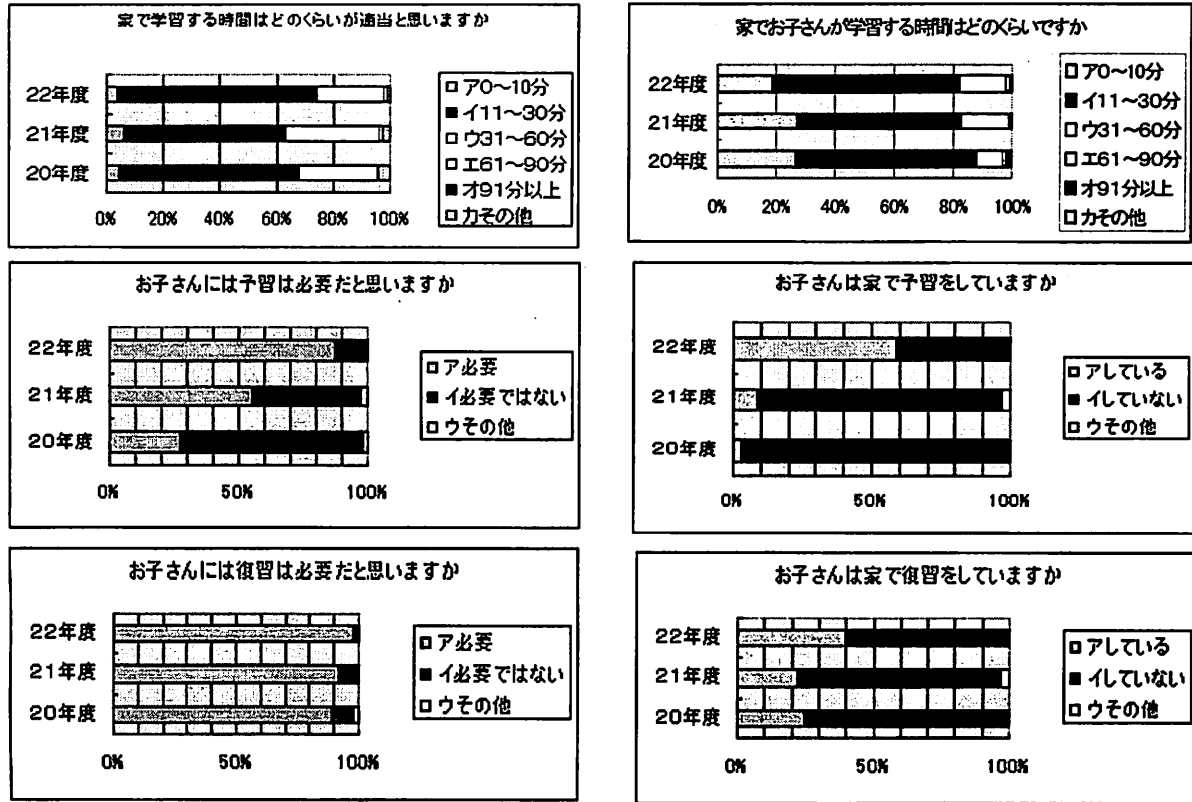
本校では、これらの授業公開や校内授業研究を行うために、事前に同学年内で同様の授業を実施し、問題点はないか、「教える」の内容が絞り込まれているか、説明の教材や教具は適切か、理解確認の問題や理解深化の問題が児童に適しているか等を検討し、効果的な指導法を確認したり、次の授業での改善点を明らかにしたりすることをしてきた。

また、授業公開や校内授業研究を行い、ビデオや写真等で記録し授業記録を取り、授業後に授業についての話し合いをもってきた。東京大学大学院教育学研究科教授市川伸一先生を始め、県教委、市教委の先生方やたくさんの先生方の助言をいただき授業についての成果と課題についての考察を行い、授業の改善に努めてきた。



「予習－授業－復習」の学習サイクルを保護者に理解してもらうために次のようなことをしてきた。

(1) 家庭学習に関するアンケートの実施



《考 察》

20、21、22年度と3年間上のような意識調査と、実態調査を行ってきた。約70%以上の家庭から回答が得られた。

- ・ 保護者の家庭学習の時間に対する意識は、それほど変化が見られないが、子どもが実際に家庭学習をしている時間は、年々増えていると感じている傾向が見られる。
- ・ 予習と復習について年度を追って比べてみると、保護者の復習の必要性についての意識は、それほど変化が見られないが、予習が必要と考える保護者が増えてきている。また、実際に保護者が予習復習をしていると感じる子どもたちが年々増えてきている。

本校では、「家庭学習のてびき」の中で「低学年は30分、中学年は40分、高学年は60分（読書を含む）」の家庭学習の時間を目指し、保護者と連携を取り自ら学習に取り組む児童を育てたいと考えている。

(2) 講演会の実施

20年度は宇都宮大学教授松本敏先生をお迎えして、「とちぎの子どもの『確かな学力』を育むために～学力を支えるための家庭生活の過ごし方～」と題し、講演をいただき、学力・学習状況調査と伸ばさなければならない学力とはどのようなものなのか、学力向上と家庭生活の関係や生活習慣の大切さをお話しいただいた。

☆ 参加された保護者の意見・感想

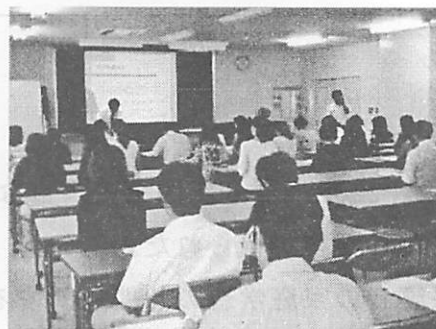
- ・パンフレットをいただいたが、話を聞いて「朝ご飯」を食べる落ち着いた家庭を築こうと思った。
- ・基本は、落ち着く家庭が大事だと思った。

☆ 先生方の意見・感想

- ・やりたくなるような授業、やりたくなるような課題を考えるようにしたい。
- ・OECDのPISA調査の例を説明していただき、量的なカンを育てることの大切さや、自分の意見をもてる子を育てることが大切だと感じた。

21年度は、「子どもの『確かな学力』を育むために」と題し、東京大学大学院教育学研究科教授市川伸一先生の講演会を実施した。学力を支える家庭学習についてのお話を聞き【家庭での予習－学校での授業－家庭での復習】により学習の定着が図れることや、そのために、各家庭でできることは何かをお話しいただいた。

これらの講演会を通して、生活習慣をどのように改善したらよいか。家庭での学習をどのようにしたらよいかなど、参加された方々は、率直な感想を発言されていた。



☆参加された保護者の感想・意見

子どもの『確かな学力』を育むために

～COMPASSの結果を生かした学力向上の方法～



COMPASS算数診断テストとは、算数の学習上の強み(得意)と弱み(不得意)を知り、その後の学習に生かす検査です。1ヶ月かでは、昨年・今年も5年生が受けました。

九月十一日(金) 東京大学大学院教育学研究科教授、市川伸一先生による講演会が開催されました。

以下、参加された保護者の方々の感想をまとめてみました。

★小学生にとって「予習」という考えはなかったのですが、「予習」・「授業」・「復習」のくり返して、はじめて知識がきちんと定着できるということを知って低学年のうちから教科書を読んで、授業に臨む習慣をつけさせたいと思いました。

★基本的な文章題も、図式に書いて解くという習慣をつけさせると、応用問題を解く際にとっても役に立つということを強く感じました。

★算数教科書の得意な子と不得意な子の動機づけが異なるっていいも良いというのは正直、新鮮な気がしました。

★間違えたところは、消さずに残すことが大切だと聞きましたので、子供にも伝えました。考え方をかえてみようと思います。

★講演を聞いた後、家庭で勉強について話し合った結果、特別な事をするのではなく、当たり前の事をしっかりとやり続ける事が一番の近道だと考えました。そして、これなら、うちの子にもできるかなと希望が大きいこと持てました。

★小学生にとって「予習」という考えはなかったのですが、「予習」・「授業」・「復習」のくり返して、はじめて知識がきちんと定着できるということを知って低学年のうちから教科書を読んで、授業に臨む習慣をつけさせたいと思いました。

★基本的な文章題も、図式に書いて解くという習慣をつけさせると、応用問題を解く際にとっても役に立つということを強く感じました。

★算数教科書の得意な子と不得意な子の動機づけが異なるっていいも良いというのは正直、新鮮な気がしました。

★間違えたところは、消さずに残すことが大切だと聞きましたので、子供にも伝えました。考え方をかえてみようと思います。

★講演を聞いた後、家庭で勉強について話し合った結果、特別な事をするのではなく、当たり前の事をしっかりとやり続ける事が一番の近道だと考えました。そして、これなら、うちの子にもできるかなと希望が大きいこと持てました。

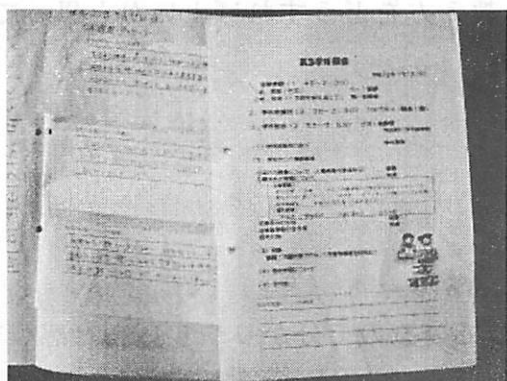
☆先生方の意見・感想

- ・ 教材研究をじっくり行い、やりがいのある問題を作って、児童に考えさせる時間を工夫したい。
- ・ 算数では、問題解決で公式等を理解させようとしてきたが、なぜそうなるかを丁寧に教え、使う場面を増やそうと思った。

(3) 授業参観と学校公開

日頃の学習の姿を保護者に参観してもらい、学校教育への理解と協力をお願いするために、授業参観を4月、7月、2月に実施し、学校公開を11月に3日間実施している。本年度は、授業参観後の感想等を保護者に書いてもらっている。

そこに書かれた保護者の意見や感想を真摯に受け止め、授業改善、学級経営等に生かしている。



☆平成22年4月21日（水）授業参観後の保護者のアンケートより

★ 6年生の保護者の意見・感想

- ・ 算数の授業はめりはりがあって、指示が分かりやすかったです。私が子どもだったら、この授業で「Xを使った式」がとてもよく分かったと思います。5×XとX×5のちがいもしっかりおさえていたし、間違っていた子へのフォローも良かったです。
- ・ 子どもたちがどれくらい理解しているか確認をして、分からない子どもには理解ができるよう指導をしている様子を見ました。すばらしいことです。

★ 4年生の保護者の意見・感想

- ・ とてもしっかりした授業内容で良かったと思います。
4年生は、ますます授業が難しくなると思うので、分からないところは分かるまで先生に聞きなさいと本人に言っています。
- ・ 楽しい授業を受けている様子が分かり安心しています。
学年部会では、指導方針についての説明があり、状況が分かりやすかったです。家庭学習も心がけていこうと思います。

☆平成22年7月6日（火）授業参観後の保護者のアンケートより

★ 5年生の保護者の意見・感想

- ・ 自主性のある授業だと思いました。図形を作って個人個人の思ったことを意見交換することにより自主性が自然に生まれるのかなと思いました。

★ 3年生の保護者の意見・感想

- ・ 予習復習の大切さを改めて感じました。家庭での学習を意識しなければと思いました。

★ 2年生の保護者の意見・感想

- ・ 「何cm何mm測る」という簡単なことなのに子どもに聞くと「分からない」と言うので、親もどこが分からないのか不思議です。
- ・ 1つの概念の理解の進め方について、とても勉強になりました。ていねいに順序立てて理解を促さなくてはならないと学びました。また、家庭での予習とのつながりが分かりました。

★ 1年生の保護者の意見・感想

- ・ 受け身の授業ではなく、参加型であるのに驚きました。子どもたちが声を発する機会がとても多いように感じました。皆、一生懸命先生の話聞いていて感心しました。
- ・ 算数がまだよく理解できずに宿題でも教え方をどうすればよいかと思っていましたが、授業の様子を見て参考になりました。

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

(1) 児童の様子から

- 予習に取り組むようになり、「予習をしているので分かりやすい」と感じている児童が多くなった。
- 児童は、「ノートの取り方の約束」があるのでノートの取り方が分かり、ノートを参考書のように見やすく書くことができる子が増えた。また、児童自身がノートづくりをするようになった。
- 授業中【教える】の場面で、予習を生かした発言をする児童が増えた。
- 【考えさせる】の場面で、児童が自分の言葉で説明する活動を取り入れたことで、理解が浅いところが明確になり、自分自身でそこを理解しようという意欲につながった。
- 理解深化の問題は、各自が自力で本時で学習したことを使って考え、ペアやグループでさらに話し合う時、話し合いが活発になってきた。
- 振り返りで「分かったこと」「分からなかったこと」をノートに書くことや自分なりに自分の理解度を評価することで、学習に意欲的に取り組める子が増えた。
- 児童は、21年度から（新学習指導要領への移行期）時数が増えたり、算数の内容が上学年から移行してきたりして、算数が難しいと感じているが、アンケートでは、教師の説明を聞くと8割以上が学習が分かると答えている。
- 「家庭学習のてびき」を使って、自主的に家庭学習に取り組む児童が増えた。

(2) 教師の取り組みから

- 全職員が研究の方向性を共通理解して「教えて考えさせる授業」を実践する大切さを実感した。
- 全職員が同一歩調で予習の指導、ノートの書き方指導を行っているので、児童に習慣

化されてきた。

- 児童の実態を全職員で分析し、理解の度合い、状況を把握することにより、単元構成や時間配分の工夫ができるようになった。
- 教えるべきことを丁寧に教えるための掲示物の作成・教育機器の活用・教材教具の厳選と授業の改善を常に心がけ、理解度を高めることができた。授業中の挙手も増えた。
- 授業研究に向けての学年内ブロック内の話し合いと、事後の全体での話し合いを丁寧にを行うことで、効果的な指導法や課題が明確になった。
- 児童のノートに書かれた「分かったこと」「分からなかったこと」に目を通すことで、児童一人ひとりの思いを知り、次時の授業に生かすようになった。
- 保護者に学校だより、PTA学年部会、講演会、家庭学習アンケート等で啓発と連携を図り、保護者の理解と協力を得ることができた。

2 今後の課題

- 児童の学習や生活の実態を継続的に見守り、指導に生かす手立てを工夫する。
- 学習サイクル（家庭での予習－授業－家庭での復習）を踏まえた『教えて考えさせる授業』の手法を生かした授業の在り方をさらに追究したい。
- 教材研究を深め授業研究の実践を重ね、深化の問題を適切に選び児童が十分に思考できる工夫をしたいと考えている。
- 表現力、思考力を育てるためにも、授業時にペアやグループでの説明活動を取り入れ、継続的に指導する。
- 自己評価力（メタ認知の力）を育てるためにも、授業時に理解度チェックや振り返りを意図的に継続する必要がある。
- 『教えて考えさせる授業』の手法の実践に取り組んでいる先進校や研究者の意見を参考に算数科だけでなく他教科、領域等でも実践的研究をしたいと考える。
- 家庭と連携して、児童が家庭学習を習慣化できるよう働きかけを続けたい。

[研究同人]

(平成22年度)

若井 祐平
大島 由臣
八長 健次
薄井 仁子
國井 洋
山崎 由利
鈴木 昭子
三柴 君予
堀江 悦子
檜枝 真理
須藤 恭代
周藤 真理子

齋藤 勝
内山 香
大川 華奈
増田 香代子
生井 美保
松浦 敏夫
湯澤 典子
倉上 清彦
八木澤 創
栗原 かほり
平栗 茜
山口 一夫

(平成21年度)

荒井 道夫
萩原 和巳
笠原 節子
栗原 貴広
助川 敦子
新井 悟
上村 圭子
阿部 文
三村 愛

(平成20年度)

松本 静枝
町田 敏夫
福田 良子
駒場 眞一
岡田 千里
金子 泰之
高野 彩子
大橋 麻美
川島 隆子
沖山 裕子